

雲林寺報 第24号



2018年1月発行

新年のご挨拶

謹んで新春のお慶びを申し上げます。旧年中は皆様のご厚情を賜りましたことを篤く御礼申し上げます。今年一年も檀信徒の皆様と一歩一歩、歩んで参りたく思います。

「一歩一歩」といえば「百尺竿頭進一歩(ひゃくしゃくかんとうしんいっぽ)」という禅語があります。百尺の竿の頂点に達したとしても、そこからさらに一歩を進める勇気を持ちましょう、といった意味です。これは修行をしてさとりを得たとしてもまだ修行が続くこと、その場に満足せず、さらに精進することを示したことはですが、禅や仏教に限らず、学ぶことに終わりは無いと言えるのではないのでしょうか。

昨今では「生涯学習」ということもいわれるようになってきました。「学習」「勉強」というと堅苦しいイメージがありますが「街の様子が変わった」「道端に花がさいていた」「本で知らないことばを見かけた」というように常に新しいことに目を向けて過ごすことも日々の学びといえるのではないのでしょうか。

「昨日の自分より、少しだけ新しい自分へ」皆様の一歩一歩がより充実することを心より祈念申し上げます。二十九世住職 轟 紀久

雲林寺の主な年間予定

- 一月二日 新年祈禱会
- 一月四日 年頭の御挨拶回り
- 二月三日 節分会(午後七時)
- 二月五日 釈尊涅槃会
- 二月十八日 教区護持会総会
- 三月十八日 春彼岸
- 四月三日 大般若会(午前十時半)
- 四月八日 釈尊降誕会(花まつり)
- 六月中旬 護持会総会
- 八月五日 天明の供養祭
- 八月二十四日 大施食会(午前十時半)
- 九月二十日 秋彼岸
- 十月八日 第十回雲林寺ゴルフコンペ
- 十二月上旬 忠霊塔供養祭
- 十二月八日 釈尊成道会

護持会だより

本年も宜しくお願い致します。総代会での話し合いにより新総代に横壁地区の萩原宗仁様をお願いすることになりました。昨年十一月、林地区の世話人を長く務めて頂いた篠原忠秋様がお亡くなりになりました。心よりご冥福をお祈り致します。後任に小林柳一様に務めて頂くことになりました。

- (総代)
 会長 田村 守
 副会長 櫻井芳樹
 書記 長谷川誠
 会計 山口次夫
 監事 櫻井輝久
 萩原宗仁
- (世話人)
 長野原 市川儀一 黒岩範一 黒岩保男
 宮崎広保 山口喜正 湯本定由
 山崎敷男 長谷川浩一 佐藤良平
 大津 浅見良雄 市村真 小林喜一郎
 櫻井敏雄 塩野英介 湯本茂 吉澤功
- 羽根尾 黒岩進 櫻井孝治 山口義秋
 与喜屋 萩原富夫
 横壁 金子茂雄
 林 小林寛 篠原憲一 小林柳一
 川原湯・川原畑 豊田清
 北軽井沢 青木博文 小金沢忠彦
 小林一雄 清水忠雄 岩田紀重
 宮田満 吉田昇 神戸久利

大節分会 2月3日午後7時より

2月3日は節分会です。当山では厄払いの祈禱及び法要を毎年行っております。一般祈禱二千元、記念品付祈禱三千五百円になり、記念品付祈禱を申込された方は会場の特設舞台上がって福豆をまいて頂きます。尚、まかれた福豆の中にはくじが入っており、景品と交換できます。是非ご参加ください。



2018年(平成30年) 厄年早見表

	前厄	本厄	後厄
女19歳の厄	17歳(2001生)	18歳(2000生)	19歳(1999生)
男25歳の厄	23歳(1995生)	24歳(1994生)	25歳(1993生)
女33歳の厄	31歳(1987生)	32歳(1986生)	33歳(1985生)
女37歳の厄		36歳(1982生)	
男42歳の厄	40歳(1978生)	41歳(1977生)	42歳(1976生)
男女61歳の厄	59歳(1959生)	60歳(1958生)	61歳(1957生)
幼児4歳の厄	2歳(2016生)	3歳(2015生)	4歳(2014生)



主な催しのご報告(八月以降)



① 八月五日、天明の供養祭が行われました。地元の小学生、中学生に集まって頂き、約四十名程でお焼香をしました。天明三年の浅間山噴火は五月八日、八月四日に大噴火、火砕流が発生し、八月五日午前一〇時頃土石流による大災害となりました。この長野原の地は二四〇名程の犠牲者を出しました。当山では平成十六年に供養碑を建立し、それ以降毎年この八月五日に供養祭を行っております。

② 八月七日、東京栄養食糧専門学校(東京世田谷区)の講師八十五名による大坐禅会が行われました。

③ 八月十四日は大施食会でした。法要前にオペラ歌手見山いづみさんによるミニコンサートが行われました。中でも「千の風になって」は盛大な拍手がおこりました。約二〇〇名の檀信徒の皆様にお集まり頂き、それぞれのご先祖様にお焼香して頂きました。今年も年回にご案内の通知をさせて頂きま

④ 八月十九日、ジオパーク体験ツアーインながののほらほらの団体様が寺致し、坐禅体験と史跡巡りをされました。

⑤ 九月二十七日、忠霊塔供養祭が行われました。忠霊塔は雲林寺敷地内、役場隣にあります。第二次世界大戦の戦没者を供養しています。

⑥ 一〇月三〇日、ハロウィンパーティーを本堂待合室で行いました。仮装したお子様をつれて有志にお集まり頂きました。今年も予定もしております。

梅花流だより

恒例となっている梅花流県大会は平成二十九年度に限り春に全国大会が行われたため県大会はありませんでした。代わりに群馬県梅花創立六〇周年、曹洞宗青年会創立五十五周年を記念して梅花流授戒会という一大イベントが桐生の大雄院様を会場に厳修されました。十一月一日から五日までの期間、長野原町では文化祭と重なり、又授戒者(生前戒名を授かる人)も無かったので雲林寺梅花講は欠席することに致しました。副住職は全日程は無理でしたが可能な限り桐生を往復しその責務を果たしてくれました。

十二月に入り本堂の窓拭きが梅花講員さんや地域の皆様のお蔭でボカボカ陽気のうちに終了することができたのでとても助かりました。

梅花講の新年は初観音様(一月十八日)から活動が再開されますので、どうぞ檀信徒の皆様と一緒に御参り下さい。お待ち申し上げます。

- 今年の梅花講の予定は左記の通りになります。
- 一月十八日 初観音様(午前十時より)
 - 一月三十一日 上級者検定講習会(桐生・大雄院)
 - 三月一日 梅花流一泊研修(伊香保・ホテル天坊)
 - 三月五日 上級者検定(高崎・向雲寺)
 - 五月二十二日 全国奉詠大会(静岡)
 - 十月下旬 群馬県奉詠大会(場所未定)
 - 大般若会(四月三日) 天明の供養祭(八月五日)
 - 施食会(八月十四日) 忠霊塔供養祭(十月中旬)
- にも梅花講として行事に参加して頂いております。宜しくお願ひ申し上げます。

轟 美代子

尊いご縁に感謝

講員 中澤至子



年2回窓拭きをして頂いています

梅花講員として雲林寺の仲間に入れて頂き、ちょうど八年になります。きっかけは夫に先立たれ、精神的になかなか立ち直れず、それでも日々の生活に追われ、気丈に振るまっておりました頃、それまで縁もゆかりもなかった私に温かく手を差し伸べて下さったのが雲林寺の副住職様でした。来るものは拒まず去る者は追わずのような大きなお心で、三回忌法要の折、御詠歌をお唱えして下さり、その学びがあることを教えて頂き、誘って下さいました。迷いながらも、少しずつ参加させて頂くうちにだんだんと楽しくなり、今では月に二回の練習が楽しみにになりました。それから抜け出すのを、ただただ待っていて下で、根気よくご指導下さり、迷いから抜け出すのを、ただただ待っていて下さったお陰様です。そして諸先輩方々のやさしさに感謝しきりです。

この度の全国大会での永平寺参拝は、独身の頃、友達数人と訪れて以来の参拝となり、梅花講に入講させて頂いたお蔭で尊き勅使門より入山が許され、そして法堂での報恩献詠が出来ましたことに感無量でございました。たくさんの尊きご縁に感謝です。

まだ梅花をかじりはじめたばかりの私ですが、このご恩をいつかどなたかに何らかの形で返しが出来たらと思っております。これからも先生ならびに諸先輩方のご指導を宜しくお願い致します。

(お知らせ) 雲林寺では毎月2回2時間程度ご詠歌(梅花流)の会を開いています。参加費は無料です。ご詠歌は、ご供養の気持ちを心温まるメロディーにのせて歌います。初めての方でも是非お気軽にお越しください。お待ちしております。

団体参拝旅行(大本山永平寺)

昨年十一月七日より一泊で「曹洞宗第六教区護持会」主催の参拝旅行が実施されました。参加された佐藤良平様、野口和子様に紀行文を書いて頂きましたのでご紹介させて頂きます。

大本山永平寺ご参拝を終えて

佐藤良平

「これから永平寺にご参拝に行きます。」
 「永平寺にご参拝に行つて来ました。」
 と静かな気持ちで仏壇に手を合わす。すっかり落ち着いた気分と、ご先祖様への

「感謝」の気持ちを素直に受け止めている私が居た。
 父が亡くなり今年で二十三回忌。私も還暦を過ぎ、この歳になりようやく両親へ、そしてご先祖に素直な気持ちで「感謝」の気持ちを伝える...ことが出来た思いがする。こうした中、大本山永平寺に夫婦でご参拝できたことは、実に感慨深い思いが頭をよぎるのである。

旅行を終えて一か月あまり。ときどき旅の写真を見て旅の思いを馳せる。
 寺院を取り巻く木々は、見事に紅葉が見ごろであった。素晴らしい景観を楽しむことができた。
 まさに「大本山永平寺【ご先祖様の供養・参拝】と錦秋の北陸路の旅」であった。

企画して頂きました雲林寺。そしてご一緒させて頂きました皆様と親睦を深めることも出来、厚くお礼申し上げます。
 雲林寺様のますますのご隆盛と時節柄、檀信徒様のますますのご健勝をお祈り申し上げます。旅の感想と致します。

永平寺参拝の記

野口和子

何年ぶりのバス旅行。体調を心配しながらの一泊でした。一度は参拝したいと思っており、年ごとに体のおとろえを案じ、今回は...と勇気を出して参加させて頂きました。

永平寺の目の前。深紅のみみじと緑と赤のコントラストのすばらしさ。映像でみるよりはるかにインパクトのある景色の中で供養してただけましたことを忘れられない人生の一頁となりました。住職様、奥様はじめ皆様のお世話になり楽しい旅をすることが出来ました。ありがとうございました。



第九回雲林寺親睦ゴルフコンペ

昨年一〇月九日体育の日、五〇名の檀信徒様にお集まり頂き開催されました。天候にも恵まれ爽やかなゴルフ日和となりました。ゴルフ終了後は本堂にて親睦パーティが行われ、総代の山口次夫様に乾杯の音頭を取って頂き、世話人の湯本茂様に司会進行をして頂きました。本年は第一〇回記念コンペとなります。



結果発表

- 1位 唐澤次男様
 - 2位 篠原博史様
 - 3位 小林柳一様
 - 4位 櫻井明德様
 - 5位 市村隆宏様
 - 6位 金子宥巻様
 - 7位 割田三男様
 - 8位 上谷川憲一様
 - 9位 金子一夫様
 - 10位 湯本完司様
- バスグロ 唐澤次男様
 レディース賞 野口恵美様

感謝禄

沢山の賞品をご寄付頂きありがとうございました。

- ホテル櫻井ペア宿泊招待券 櫻井芳樹様
- 金巻蔓園 山口次夫様
- 浅間酒造サイダー三箱
- 酒三本
- 酒造まんじゅう
- コシヒカリ十キロ
- 缶コーヒート二箱
- ツアーステーツキヤディバッグ 長谷川浩一様
- ハンドクリーム三箱 佐藤良平様
- 日清ラーメン一箱 長野原新聞販売所様
- 日清ラーメン一箱 スーパー大津様
- 夕食ご招待券ペア二組 ナウリゾートホテル様
- ゴルフボール一ダース
- カラダすこやか茶一ケース
- キャディバッグ 草津カントリークラブ様

あたたかい心

天明の大噴火で亡くなられた方を供養するため、約二〇年前に建立されたお地蔵様が今も参道入口に残っており、裸足のお地蔵様の草履をどなたかが作って下さいました。ありがとうございます。



平成三〇年 回正 当のお知らせ

八月十四日の施食会は五十回忌を除いた施主様に
通知させて頂きます。年回に当たられていない施主様
もご連絡頂ければ先祖代々の塔婆をご用意します。

- 様山桂中 17 様澤 17 様澤 17 北 1 一 廣 弘 嶋 3 清 黒 3 市 雄 大 3 様 前 様 雄 詰 50 7 13 佐 3 良 23 様 長 野 原 地 区
23 田 一 村 17 3 宏 1 千 3 浩 川 様 村 17 3 黒 岩 黒 村 様 様 津 地 区 23 33 湯 山 様 宮 17 様 俊 竹 高 柴 藤 佐 3 良 23 様 長 野 原 地 区
霜 栄 様 浩 土 小 吉 7 影 石 井 沢 13 13 浩 川 様 村 17 3 黒 岩 黒 村 様 様 津 地 区 23 33 湯 山 様 宮 17 様 俊 竹 高 柴 藤 佐 3 良 23 様 長 野 原 地 区
初 様 7 様 満 3 谷 1 拓 完 司 口 3 英 1 子 小 23 様 林 黒 様 市 征 櫻 由 ず 本 保 患 長 様 篠 原 17 美 17 27 八 安 様 透 様 3
17 田 豊 中 様 様 正 様 隆 27 菊 33 人 川 様 弘 3 枝 富 村 嶋 33 男 33 次 岩 黒 様 市 征 櫻 由 ず 本 保 患 長 様 篠 原 17 美 17 27 八 安 様 透 様 3
光 様 村 7 7 芳 3 様 川 13 田 様 弘 3 枝 富 村 嶋 33 男 33 次 岩 黒 様 市 征 櫻 由 ず 本 保 患 長 様 篠 原 17 美 17 27 八 安 様 透 様 3
平 23 嘉 德 佐 様 川 13 田 様 弘 3 枝 富 村 嶋 33 男 33 次 岩 黒 様 市 征 櫻 由 ず 本 保 患 長 様 篠 原 17 美 17 27 八 安 様 透 様 3
様 宮 江 間 々 7 嶋 50 俊 7 泉 山 様 口 3 道 治 武 小 様 山 17 様 雄 良 川 様 八 川 様 柳 崎 宮 様 一 7 子 川 土 竹 7 章 藤 佐 3 良 23 様 長 野 原 地 区
3 澤 様 信 木 黒 夫 倉 様 井 7 浩 湯 子 矢 様 33 関 13 様 村 坂 昭 健 熊 一 川 場 浅 見 3 湯 1 下 23 様 宮 3 枝 口 沢 清 7 藤 17 夏 塚 3 浅 沼 伸 行
吉 昭 17 一 経 岩 夫 倉 様 井 7 浩 湯 子 矢 様 33 関 13 様 村 坂 昭 健 熊 一 川 場 浅 見 3 湯 1 下 23 様 宮 3 枝 口 沢 清 7 藤 17 夏 塚 3 浅 沼 伸 行
田 次 新 様 夫 栄 様 1 様 井 司 本 様 野 23 晴 野 貢 島 17 一 岩 13 50 様 50 ノ 少 様 一 50 様 花 野 竹 27 様 修 二 藤 郎 一 23 四 沼 伸 行
久 様 山 17 様 様 1 様 井 司 本 様 野 23 晴 野 貢 島 17 一 岩 13 50 様 50 ノ 少 様 一 50 様 花 野 竹 27 様 修 二 藤 郎 一 23 四 沼 伸 行
様 7 国 富 13 3 川 7 上 和 27 様 山 江 口 様 修 3 照 口 様 村 坂 昭 健 熊 一 川 場 浅 見 3 湯 1 下 23 様 宮 3 枝 口 沢 清 7 藤 17 夏 塚 3 浅 沼 伸 行
7 柳 男 岡 清 小 嶋 仁 谷 彦 新 27 口 様 修 3 照 口 様 村 坂 昭 健 熊 一 川 場 浅 見 3 湯 1 下 23 様 宮 3 枝 口 沢 清 7 藤 17 夏 塚 3 浅 沼 伸 行
下 沢 様 信 水 金 仁 谷 彦 新 27 口 様 修 3 照 口 様 村 坂 昭 健 熊 一 川 場 浅 見 3 湯 1 下 23 様 宮 3 枝 口 沢 清 7 藤 17 夏 塚 3 浅 沼 伸 行
田 豊 33 明 素 沢 様 川 様 井 正 50 男 高 男 達 3 郎 靖 彦 様 久 湯 1 下 23 様 宮 3 枝 口 沢 清 7 藤 17 夏 塚 3 浅 沼 伸 行
公 様 藤 様 彦 一 33 憲 3 晴 和 山 様 橋 様 也 小 様 彦 様 久 湯 1 下 23 様 宮 3 枝 口 沢 清 7 藤 17 夏 塚 3 浅 沼 伸 行
男 3 田 1 様 郎 北 一 大 吉 様 口 3 和 27 様 林 27 様 27 久 湯 1 下 23 様 宮 3 枝 口 沢 清 7 藤 17 夏 塚 3 浅 沼 伸 行

- 明 村 様 和 村 群 様 50 伸 篠 様 他 吉 野 様 東 郎 基 草 け 直 子 中 中 1 正 与 17 川 本 爪 様 富 秀 羽 河 勝 様 様 様 様 様 林
様 正 17 彦 和 村 群 様 50 伸 篠 様 他 吉 野 様 東 郎 基 草 け 直 子 中 中 1 正 与 17 川 本 爪 様 富 秀 羽 河 勝 様 様 様 様 様 林
7 子 黒 様 久 様 外 様 13 野 泰 原 1 群 様 50 伸 篠 様 他 吉 野 様 東 郎 基 草 け 直 子 中 中 1 正 与 17 川 本 爪 様 富 秀 羽 河 勝 様 様 様 様 様 林
中 様 岩 7 様 様 玲 子 郎 越 霜 忠 艶 1 江 寺 木 関 13 様 野 13 様 厚 7 様 原 口 小 区 美 川 様 幸 雄 男 酒 様 井 7 33 唐 唐 澤 石 木 郁 司 江 原 17 1 1 50 様 50 1
田 23 裕 篠 50 玲 子 郎 越 霜 忠 艶 1 江 寺 木 関 13 様 野 13 様 厚 7 様 原 口 小 区 美 川 様 幸 雄 男 酒 様 井 7 33 唐 唐 澤 石 木 郁 司 江 原 17 1 1 50 様 50 1
み 人 一 原 市 湯 子 郎 越 霜 忠 艶 1 江 寺 木 関 13 様 野 13 様 厚 7 様 原 口 小 区 美 川 様 幸 雄 男 酒 様 井 7 33 唐 唐 澤 石 木 郁 司 江 原 17 1 1 50 様 50 1
つ 見 様 敏 村 本 様 様 尚 田 様 臼 子 嬌 恋 3 村 33 明 様 7 野 田 7 野 口 悠 夫 様 27 太 郎 33 青 木 村 佐 50 17 1 様 1 陽 野 口 13 延
子 五 1 様 33 三 惠 50 様 雄 吉 環 3 村 33 明 様 7 野 田 7 野 口 悠 夫 様 27 太 郎 33 青 木 村 佐 50 17 1 様 1 陽 野 口 13 延
様 郎 田 33 三 惠 50 様 雄 吉 環 3 村 33 明 様 7 野 田 7 野 口 悠 夫 様 27 太 郎 33 青 木 村 佐 50 17 1 様 1 陽 野 口 13 延
27 様 中 藤 子 様 石 萩 50 克 1 野 田 7 野 口 悠 夫 様 27 太 郎 33 青 木 村 佐 50 17 1 様 1 陽 野 口 13 延
野 13 彰 野 戸 様 23 13 子 郎 越 霜 忠 艶 1 江 寺 木 関 13 様 野 13 様 厚 7 様 原 口 小 区 美 川 様 幸 雄 男 酒 様 井 7 33 唐 唐 澤 石 木 郁 司 江 原 17 1 1 50 様 50 1
口 浅 様 戸 様 23 13 子 郎 越 霜 忠 艶 1 江 寺 木 関 13 様 野 13 様 厚 7 様 原 口 小 区 美 川 様 幸 雄 男 酒 様 井 7 33 唐 唐 澤 石 木 郁 司 江 原 17 1 1 50 様 50 1
達 沼 23 泰 岩 戸 様 23 13 子 郎 越 霜 忠 艶 1 江 寺 木 関 13 様 野 13 様 厚 7 様 原 口 小 区 美 川 様 幸 雄 男 酒 様 井 7 33 唐 唐 澤 石 木 郁 司 江 原 17 1 1 50 様 50 1
哉 久 芝 文 岩 戸 様 23 13 子 郎 越 霜 忠 艶 1 江 寺 木 関 13 様 野 13 様 厚 7 様 原 口 小 区 美 川 様 幸 雄 男 酒 様 井 7 33 唐 唐 澤 石 木 郁 司 江 原 17 1 1 50 様 50 1
様 哉 田 様 景 邦 27 様 野 口 幸 50 克 治 黒 岩 1 一 様 7 野 田 7 野 口 悠 夫 様 27 太 郎 33 青 木 村 佐 50 17 1 様 1 陽 野 口 13 延
1 様 三 27 郎 唐 13 子 郎 越 霜 忠 艶 1 江 寺 木 関 13 様 野 13 様 厚 7 様 原 口 小 区 美 川 様 幸 雄 男 酒 様 井 7 33 唐 唐 澤 石 木 郁 司 江 原 17 1 1 50 様 50 1
三 27 郎 唐 13 子 郎 越 霜 忠 艶 1 江 寺 木 関 13 様 野 13 様 厚 7 様 原 口 小 区 美 川 様 幸 雄 男 酒 様 井 7 33 唐 唐 澤 石 木 郁 司 江 原 17 1 1 50 様 50 1
塚 豊 田 7 祥 櫻 3 様 野 口 幸 50 克 治 黒 岩 1 一 様 7 野 田 7 野 口 悠 夫 様 27 太 郎 33 青 木 村 佐 50 17 1 様 1 陽 野 口 13 延
通 田 7 祥 櫻 3 様 野 口 幸 50 克 治 黒 岩 1 一 様 7 野 田 7 野 口 悠 夫 様 27 太 郎 33 青 木 村 佐 50 17 1 様 1 陽 野 口 13 延
之 美 清 夫 井 市 也 様 1 一 様 7 野 田 7 野 口 悠 夫 様 27 太 郎 33 青 木 村 佐 50 17 1 様 1 陽 野 口 13 延

平成三十年 年度 年回表

一周忌	平成二十九年	二〇一七年
三回忌	平成二十八年	二〇一六年
七回忌	平成二十四年	二〇一二年
十三回忌	平成十八年	二〇〇六年
十七回忌	平成十四年	二〇〇二年
二十三回忌	平成八年	一九九六年
二十七回忌	平成四年	一九九二年
三十三回忌	昭和四十一年	一九九六年
三十九回忌	昭和四十一年	一九九六年

編集後記

皆様、それぞれにおだやかな新年を迎えられて
いることと拝察致します。
旧年中も檀信徒の皆様とのあたたかい御法縁
で、当山も無事諸行事を円成することができました。
また、今年の年始の訪問では、法語を記した
マグネットをご用意致しました。私の好きなコ
トバです。
一つは「生かし 生かされ 生きていく」

生きる事って人に生かされることです。生きる
ことって人を生かすことです。生かし生かされ
て生きていくことで、あなたにできることは、
あなたの中やあなたのまわりに整っていきます。
「生きていくだけがいい。」この言葉の持つ重み
にひとたび気づくことができたら、それは
「どんな時にも出口はある」
「明日は新しい一日が始まる」
という言葉とともに、大地にし
っかりと根を張る大樹のように、
あなたとあなたの人生を根幹か
らしっかりと支えてくれるはず
です。
二つ目は「念ずれば花ひらく」

生かし生かされる中で、何事も一
生懸命に祈るように努力すれば、
自ら道は開ける、夢や目標がか
なうといった意味です。

謹んで本年も皆様方の万福多幸
を祈念申し上げます。

副住職 轟 省吾

生かし 生かされ 生きていく
曹洞宗 大洞山 雲林寺 TEL (0279) 82-2201
念ずれば 花ひらく
曹洞宗 大洞山 雲林寺 TEL (0279) 82-2201